



誓いの言葉を話す村山千里さん（小規模多機能ホームやかた）

県内で福祉・介護職として新たな一步を踏み出した職員を激励する「令和元年度 岩手県介護施設等合同入職式」が5月10日、盛岡市内のホテルで行われました。

合同入職式は、岩手県社会福祉協議会高齢者福祉協議会、岩手県介護老人保健施設協会、岩手県認知症高齢者グループホーム協会、いわて小規模多機能型居宅介護事業所協会の4団体が主催し、所属施設・事業所を越えた同期の絆を深め、研修等により相互の資質や意欲を高めるとともに人材の定着を図ることを目的に、初めて開催されました。

当日は、昨年4月以降に介護施設・事業所に入職した109人が参加し、式典やランチ交流会、グループワーク等を通して、介護の仕事の魅力や重要性を改めて確認するとともに、同期との交流を深めました。

# 岩手県介護施設等合同入職式を初開催

## ～介護人材の定着に向けて～



### 式典の様子

式典では、主催4団体の先輩職員から応援メッセージがあり、グループホーム白山の里（八幡平市）介護職員の石井恵利さんは、「仕事と子育ての両立に挫折し、一度介護職を離れたが、再就職した今はいきいき働いている。子どもの病気で休まなければならぬときは仕方がないとき、仕事に戻つたらその分がんばればよいと考え方を改めた。利用者さんからの感謝の言葉が、原動力ややりがいになつて目標をもち常に向上心をもつて働く。」

くことで、仕事の苦労を跳ね返せる楽しみがきつと見つかると思う」と話しました。

続いて、入職者を代表して、小規模多機能ホームやかた（釜石市）の介護職員の村山千里さん（ラグビー・釜石シーウェイブスRFC所属）が、「チーム一丸となつて勝利に向かい全力を尽くすラグビーと、職員が一体となって利用者さんに向き合い最善を尽くす介護の仕事とは共通点が多い。利用者さんを自分のプレーで元気づけることが目標。仲間とスクランブルを組みながら、自分の人生にトライできるよう

日々精進したい」と誓いました。

ランチ交流会後は、参加者全員での記念撮影が行われ、出席した達増知事から、「介護は高齢者の方々の暮らしに寄り添い支える大切な仕事。皆さんが介護の仕事を選択し新たな一步踏み出せることは、大変喜ばしく頼もしい。本日は、同期の仲間や先輩方と一緒に交流し、将来にわたる堅い絆を結んで行つてほしい」と激励の言葉がありました。

### 一人の中にいろんな色がある

午後の部の講演では、「高齢者を支

えるということ」～一人十色の人生観～と題し、社会福祉法人光寿会理事長太田宣承氏から、「目の前の人人が喜んでくれたか、幸せを感じてくれたかをを目指すのが介護の仕事。自分らしい色は一つではない。一人の中にいろんな色があり、様々な色がその人の人生を作っている。変わつていく色をどう受け止め、どう解釈して行くかということが大事。その人の言葉の奥にあるものに気付き、耳を傾ける皆さんであつてほしい」と、参加者にエールを送りました。

### 入職式次第

#### ○開会

主催者代表挨拶

来賓紹介

主催4団体の先輩職員からの応援メッセージ  
入職者代表誓いの言葉

#### ○ランチ交流会

#### ○記念撮影

#### ○岩手県知事による激励の言葉

○講演「高齢者を支えるということ」  
～一人十色の人生観～

#### ○グループワーク

「介護業界の可能性と未来」

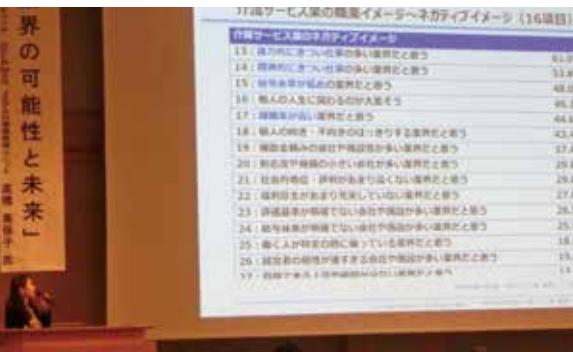
#### ○閉会



先輩職員の経験談に耳を傾ける参加者



グループごとに目標をまとめる作業



(株)リクルートキャリア 高橋美穂子氏による職業イメージの説明



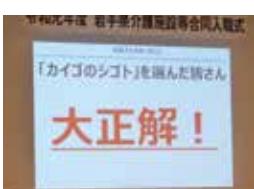
参加者全員で目標共有



(福)光寿会 太田宣承氏による講演



ランチ交流会のひととき



## 「カイゴノシゴト」 を選んだ皆さん 大正解！

続いて、「介護業界の可能性と未来」について、株式会社ヘルプマンジャパン事業推進ユニット高橋美穂子氏による説明とグループワークが行われました。

高橋さんは、介護の職業イメージが本当に正しいかという視点で、介護業界の現状について説明し、いろいろな業界と比較しても社会的な意義も大きく、将来性の高い仕事で、介護の仕事を選んだ皆さんは「大正解！」ですと、歓迎しました。

**〈介護に対するポジティブイメージ〉**  
以下、HELP MAN JAPAN 介護サービス業職業イメージ調査2015から抜粋  
社会的に意義の大きい仕事だと思う(38.8%)、今後成長していく業界だと思う(30.9%)、雇用不安の少ない業界だと思う(15.4%)

（現状）

日本は世界最高齢国に向かっており、介護の労働市場は拡大していく。今後労働人口が増えるのは、医療・福祉業界のみと言われている。介護の仕事は成長産業である。  
介護職に就く人は年々増加しているが、高齢者の増加スピードが介護職員の増加スピードよりも速いため、人材不足が生じている。  
世の中のサービスは高齢者向けに転換し始め、他業界から福祉業界への進出が始まっている。  
介護は将来AIやロボットに代替される可能性が低い。今後もなくならない仕事である。

### 〈介護に対するマイナスイメージ〉

体力的にきつい仕事の多い業界だと思う(61.0%)、給与水準が低めの業界だと思う(48.0%)、離職率が高い業界だと思う(46.6%)

後半、地域ごと11グループに分かれ行なわれたグループワークでは、高齢者協21世紀委員会のメンバーが各グループに入り、各自の入職後3年以内に起こった仕事やプライベートでの経験談を話しました。個人ワークでは、1年後の「私」（こんな私になっていたいという姿）を想像し、それぞれが明日から「私」を表す一言（目標）を画面に記入した後、グループの仲間に

目標を宣言しました。最後に、グループごとに1枚の模造紙に目標をまとめ、参加者全員が決意を新たにしていました。

**（現状）**  
医療・福祉業界の給与水準は、全業界の中で突出して低くはない。また、キャリアを積むことにより給与は上がっていく。  
離職率は全業界の平均をやや上回ってはいるが、年々改善している。

労働者一人あたりの平均年間休日総数は、全業界の平均とほぼ同等で、残業時間も決して多くはない。（平成24年度介護労働実態調査（介護労働安定センター）では、残業なしが50.2%）体力面・精神面の負担を軽減するため、介護機器等の開発が進んでいる。

## 明日からの「私」

